

StatLock®

Stabilization Devices.
末梢静脈カテーテルの専用固定デバイス

末梢静脈アクセスの
安全性を高めます



- 末梢静脈カテーテル留置による合併症を低減します
- 看護効率を高めます
- 合併症に対するコスト削減が図れます

▶ 末梢静脈輸液療法は 不可欠な治療法です

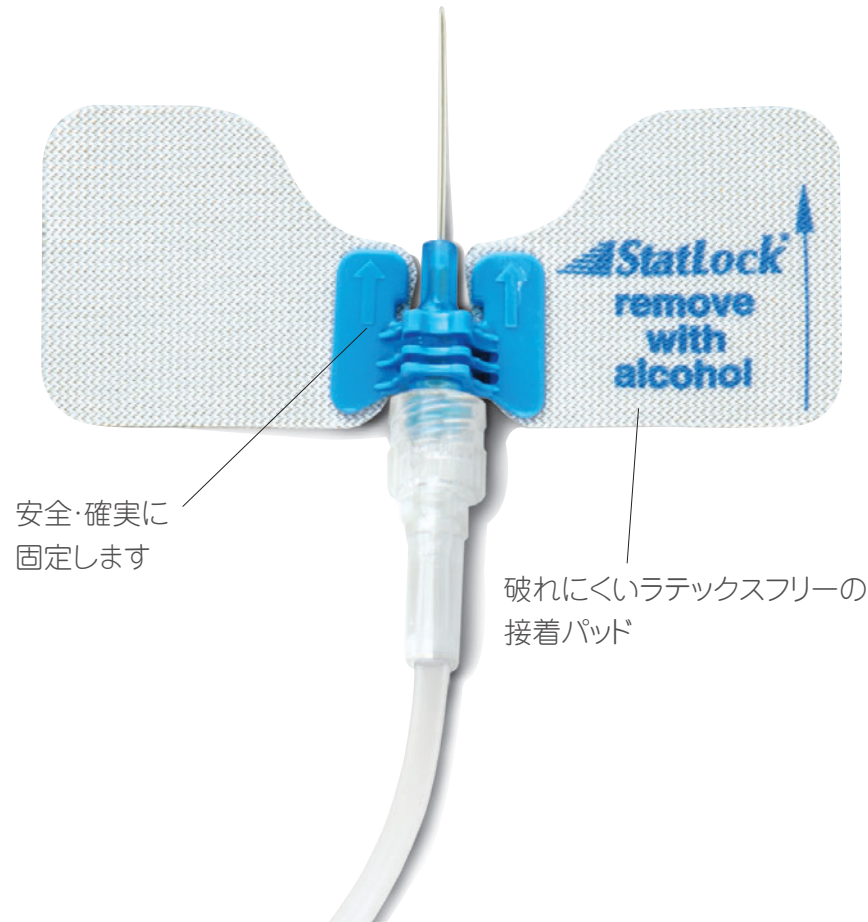
末梢静脈輸液療法は、薬剤を適正な用量で
適切なスケジュールで中断なく投与する必要があります。



▶ スタットロックの特長

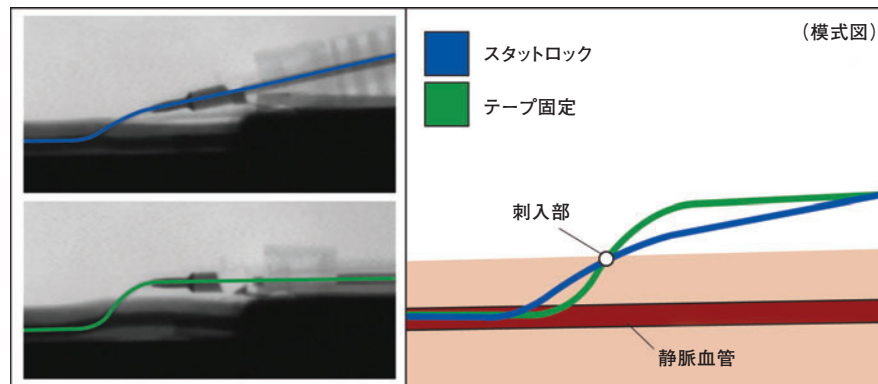
スタットロックは、末梢静脈輸液療法にともなう合併症を軽減し、看護効率を向上させ、合併症に対するコストを低減できることが実証された末梢静脈カテーテル専用固定デバイスです^{1,9}。

- スタットロックは、カテーテルの移動による合併症を最小化するように設計されており、血管の損傷を低減するのに役立ちます^{2,3,5}。
- スタットロックは、従来のテープによるカテーテルの固定方法に比べ、患者様だけでなく医療従事者にとっても多くのメリットをもたらします⁵。



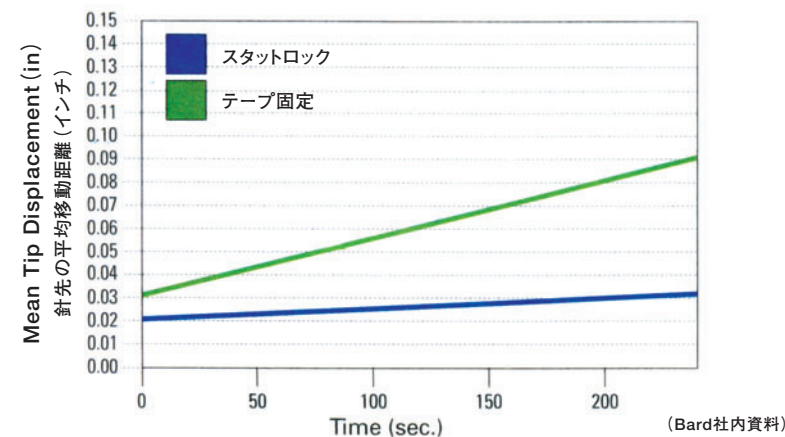
末梢血管に適したアプローチ

スタットロックは、末梢静脈にカテーテルを挿入する場合でも、従来のテープ固定より末梢血管に適した角度で固定が可能です。



カテーテルの微小な動き

スタットロックは、テープに比べ、カテーテル先端のわずかな動きを抑える性能に優れています。このため長時間の安定した固定力を保ちます。



▶ スタットロックの実証データ

テープ固定とスタットロック固定を比較した臨床研究によりスタットロック固定用デバイスは合併症の低減、治療の質、経済性の向上を示しました。

実証された合併症低減効果

- 末梢静脈合併症発生率をおよそ67%低減しました¹。
- 静脈炎発生率をおよそ80%低減しました¹。
- テープ貼付にともなう肌のダメージの低減効果も実証されました^{2,7}。

患者さんにとって不快感を減らし、よりよい患者ケアに役立ちます

- 予定外のカテーテル再挿入を71%から17%に減らしました¹。
- 末梢静脈カテーテル留置平均時間を48時間から98時間まで拡大できました^{4,5}。
- これまで74%もの感染率が報告されてきた非滅菌テープの使用をなくすことができました⁸。

時間と費用を節減します

- 材料費用を低減できますー100回のカテーテル挿入実施にあたり、55回実施回数を減らすことができました¹。
- 看護師の作業時間を節減できますーテープを使用した場合に比べ、1回の末梢静脈カテーテル挿入当たり平均29分間作業時間を短縮できました (29分×末梢静脈再挿入5000回の削減=2417時間の節減)⁹。
- 米国の病院では、年間およそ20万ドルの費用節減が期待できました¹。

▶ 末梢静脈輸液療法を 中断しないようにすることが 非常に重要です

末梢静脈カテーテルの移動が 合併症の原因となります。

- テープで固定したすべての末梢静脈カテーテルのうち最大48%で合併症が見られます。
- 血管内カテーテルの微小運動、いわゆる「ピストン運動」が、こうした合併症の原因と考えられています^{2,3,4,5}。
- 静脈炎、浸潤、溢出、閉塞、位置移動などがよく見られる合併症です¹。

合併症が発生すると、末梢留置針の 再挿入が必要になります。 患者様の安全と安楽を損なう原因となります。

- 血管内での末梢静脈カテーテルの動きが、血管壁損傷の原因となり、合併症を起こす場合があります³。
- 平均的なテープ固定カテーテルの留置時間はわずか44時間、CDCのガイドラインに推奨された72時間から96時間の1/3から1/2でしかありません⁵。

末梢静脈輸液療法を中断した場合の時間と費用

- 合併症を発生した場合、予定外のカテーテル再挿入が必要となります。再挿入は推定で最大71%です¹。
- カテーテル再挿入には、看護師の介入と再挿入の費用が必要となります⁹。
- 米国ではメディケアその他の医療保険では、予防可能なミスに対処する費用を支払いません⁶。

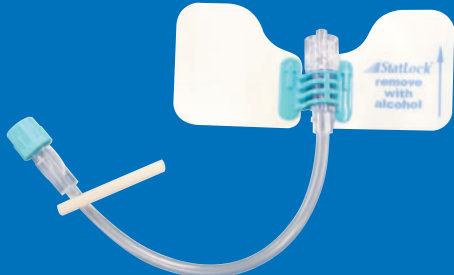
Ordering information



販売名:スタットロック (IV ウルトラ)

カタログ番号	規格	包装単位
IV0520CE	大人用	50入

届出番号:27B1X00052000007



販売名:スタットロック セット (IV セレクトエクステ)

カタログ番号	包装単位
IV0525CE	25入

認証番号:221ADBZX00042000

スタットロック®ウルトラ (IV ウルトラ) は次の製品と適合します。

- ・「BD インサイト オートガード」日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 (翼付きを除く)
- ・「イントロカン セーフティ」ビー・ブラウンエースクラップ株式会社 (ウイング付きを除く)

〈参考資料〉

- 1) .Schears, Gregory J. "Summary of Product Trials for 10,164 Patients." Journal of Infusion Nursing 29.4 July/August(2006):225-229.
- 2) .Sheppard, Kathy. "A Prospective Study of Two Intravenous Catheter Securement Techniques in a Skilled Nursing Facility." Journal of Intravenous Nursing 22.3 May/June(1999):151-156.
- 3) .Royer, Timothy. "Improving Short Peripheral IV Outcomes: A Clinical Trial of Two Securement Methods." The Journal of the Association for Vascular Access 8.4(2003):1-5.
- 4) .Smith, Bonnie. "Peripheral Intravenous Catheter Dwell Times." Journal of Infusion Nursing 29.1 January/February(2006):14-17.
- 5) .Frey, Ann Marie and Schears, Gregory J. "Why Are We Stuck on Tape and Suture?" Journal of Infusion Nursing 29.1 January/February(2006):34-38.
- 6) . "Medicare Won't Pay For Hospital Errors." AOL News, August, 2007.
- 7) .Bowe-Geddes, Leigh Ann and Wood, Diana "A Comparative Retrospective Analysis of Two Securement Techniques for Peripherally Inserted Central Catheters(PICC) and Midlines in the Homecare Setting." National Association of Vascular Access Networks 2.3 Fall(1997).
- 8) .Hadaway, Lynn. "Infiltration and Extravasation: Preventing a Complication of IV Catheterization." American Journal of Nursing 107.8 August(2007):64-72.
- 9) .Wood, Diana "A Comparative Study of Two Securement Techniques for Short Peripheral intravenous Catheters" Journal of Intravenous Nursing 20.6 November/December(1997):280-285.

●Bard、バード、StatLock、スタットロックはC.R.Bard社の登録商標です。

※事前に必ず添付文書を読み使用上の注意等を守って正しくご使用ください。同製品の添付文書は、弊社WEBサイト及び独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の医薬品医療機器情報提供ホームページでも閲覧できます。
 ※製品の仕様・形状等は、改良等の理由により予告なく変更する場合がございますので、あらかじめご了承ください。



Bard Medical Division
 C. R. Bard, Inc.
 8195 Industrial Boulevard
 Covington GA 30014

製造販売元



株式会社 **メディコン**

本社 大阪市中央区平野町2丁目5-8 ☎06 (6203) 6 5 4 1 (代)
 (平野町センチュリービル1F)
 大阪営業所 大阪市中央区平野町2丁目5-8 ☎06 (6203) 6 7 7 0 (代)
 (平野町センチュリービル4F)
 東京営業所 東京都台東区上野6丁目6-10 ☎03 (5812) 3 5 1 1 (代)
 (台和上野ビル8F)
 札幌 ☎011 (281) 7422 盛岡 ☎019 (621) 1840
 仙台 ☎022 (295) 6762 静岡 ☎054 (254) 6191
 名古屋 ☎052 (722) 4373 金沢 ☎076 (234) 2202
 京都 ☎075 (762) 0666 神戸 ☎078 (271) 3330
 岡山 ☎086 (232) 1292 広島 ☎082 (924) 7277
 高松 ☎087 (837) 4175 福岡 ☎092 (526) 6677
 熊本 ☎096 (384) 7733

www.medicon.co.jp